

スラム街出身のフィリピン人海外出稼ぎ労働者の安全な海外就労に対する考察

-ナボタス町サント・ニーニョ村C3地区を対象に-

47116769 国際協力学専攻 貝野 綾

指導教員：堀田昌英教授

Key words:フィリピン人海外労働者、渡航ネットワーク、渡航前の情報収集

1.背景

フィリピンは、海外出稼ぎ先からの巨額の送金で経済を支えている。

2007年にフィリピン人海外出稼ぎ労働者は約800万人おり、その中でも非正規フィリピン人海外労働者は約107万人いると推定されている。

非正規フィリピン人海外労働者には海外雇用庁(POEA)からの労働認可が下りていないため、人権が保障されず、渡航先で様々なトラブルに巻き込まれていると言われている(青木,2009)。

2.目的

本研究では「渡航前の行動及び労働者個人の属性」及び「労働者がネットワーク」に焦点を置き、出稼ぎ労働者が赴任先でトラブル(過剰な労働、人権の問題、また訴訟、事故を含むものが一つでも起きた場合、「トラブルに巻き込まれた」として数えている)の無い出稼ぎを行うにはどうすべきかを提案する。

3. 既往研究のまとめ

フィリピン人出稼ぎ労働者の研究で既に明らかにされている事は(1)出移民のメカニズム(De Jong et al.,1983)、(2)国内経済への影響(Manalo I,1992)、(3)労働力輸出政策(山形,1991)、(4)労働者の実態調査(Vicky C,1999)、(5)出稼ぎ労働者の社会ネ

ットワーク(Fe Caces et al.,1985)の5つである。しかし、フィリピン人出稼ぎ労働者が渡航前に自身が渡航先でトラブルに巻き込まれない為に事前にどのような対策をしているのか、またどのような行動が安全な出稼ぎ労働に対して効果的なのかという事についての研究は少ない。

4.研究手法

①インタビュー調査

(2011年9~10月、2012年5~6月)

【対象者】出稼ぎに過去に行った人がある103名

【研究対象地】ナボタス町サント・ニーニョ村C3地区である。人口は531世帯(約2000名)、またフィリピン人出稼ぎ労働者は約100名いる。

②出稼ぎに関する情報ネットワーク分析

(1)「C3地区で出稼ぎに関する情報を提供した3人」を挙げてもらう。

(2)Pajekで情報ネットワーク図を作成。

(3)ネットワーク内での近接中心性、媒介中心性等の指標を計算する。

(4)近接中心性、媒介中心性とトラブルの有無のクロス表を作成する。

(5)トラブルの有無を被説明変数にした回帰分析に近接中心性、媒介中心性を入れた際にも有意な数値が出るか確かめる。

③安全な海外就労モデル

(1)渡航時のトラブルの有無と情報使用頻度のクロス集計を行う。

(2)渡航先でのトラブルの有無を被説明変数とし、中心性と媒介性+情報ソースの選択を独立変数とする回帰分析を実行する。

④パス解析

(1) ③のモデルでは近接中心性とトラブルの有無の間に関係が見られなかった為、Direct Hiringを経由した近接中心性とトラブルの有無の関係性を見る為のパス図を作成した。

(2)パス図の推定値を計算した結果、どのパスも有意に示されず、結局、近接中心性とトラブルの有無は関連性が見られなかった。

⑤東日本入国管理センターでのインタビュー調査

(1)茨城県牛久市にある在留特別許可などを待つ外国人を収容している東日本入国管理センターに於いてフィリピン人10名にインタビュー調査を行った(2012年10月26日、11月14日実施)。

⑥出稼ぎ労働に関する記事のテキスト分析

(1) PHILIPPINE HEADLINE NEWS ONLINEというインターネット上のニュースサイト内で「OFW」(フィリピン人海外労働者)と検索してヒットした記事183件を対象にKH Coderを用いて計量テキスト分析を行った。

(2)「名詞」「動詞」「形容詞」に語を分類した。

(3)記事の内容で種類分けを行った。

5.結果

フィリピン国内の人材斡旋会社なしで渡航先に直接申請する(Direct Hiring)という形式を取り、その制度を利用した全員(15

名)が現地でトラブルが無かったと答えた。また、渡航前に友人から情報を得ることも渡航先でのトラブルの有無と関係が見られた。その理由は2つある。1つ目に労働者はtext mailを通じて既に出稼ぎに行っている友人や家族から渡航先の情報を得ることが出来たからである。2つ目に渡航者の友人、家族が雇用先に仕事を斡旋して貰えるように頼んだからである。

ただし、Direct Hiring(直接渡航先に仕事を申し込む事)のみが安全な海外就労に繋がるのではなく、加えて既に出稼ぎ先で働いている家族及び友人のコネクションが必要である。この根拠は東日本入国管理センターで収容されており、かつDirect Hiringを使用した6名からのインタビューに基づく。彼らの共通項は渡航前に知人から日本での就労体験談を全く聞き出せず、何のコネクションもなく日本にtourist visaで渡航しトラブルに巻き込まれた事である。

また、フィリピン国内のメディアは海外就労に関する肯定的な記事ばかり載せ、「渡航先でのトラブル」に関する記事はあまり無い為、労働者は海外就労に対するリスクをあまり認知せずに出稼ぎに行ってしまう事が明らかになった。

6.結論

フィリピン人海外労働者の安全な海外就労と家族や友人といった身近な人との強い紐帯(Strength of strong tie)の間に関係が見られる。

7.参考文献

青木 秀男(2009)「労働市場と海外出稼ぎ—フィリピン・マニラを中心に」『アジア太平洋レビュー』pp.1-23